

# 退任にあたって

平成19年4月

滝上町長 澤田 詮一



町長退任にあたりまして、町民各位にご挨拶を申し上げます。

私は、この4月の任期満了を機に、後進に道を譲り町長を退任する旨、昨年12月の議会で表明したところであります。

私は、平成11年5月に山口前町長の後を受けて町長に就任し、2期8年にわたり町政を担当してまいりましたが、いよいよこの4月末日を持って退任いたします。この間、町議会をはじめ町民各位のご理解とご協力をいただき、今ここに無事退任できますことを、心から感謝しお礼申し上げる次第であります。

私が就任いたしました時の国内状況は、21世紀という新世紀を目前にして右肩上がりの経済成長が終焉し、経済活力の低下により失業率は上昇、大競争時代の到来、急速な高齢化、国・地方の大幅な財政赤字など大きな構造的変革期にありました。本町においても人口の減少は引き続き止まらず、産業経済の停滞、少子高齢化、さらには町財政も徐々に厳しさを増し、町政を巡る情勢は予断を許さない時期を迎えたところでありました。私が就任する直前においても、国・道の積極的な財政出動の指導があり、どこの市町村においても景気浮揚対策のための公共事業に力点をおいた財政運営をしていたところでありました。しかし、これまで実施してきた事業の継続や施

設の維持、負担金の償還など、従来の発想での行財政運営は困難な状況になりつつあり、地方分権時代の到来や介護保険制度の導入、ダイオキシン類等の環境規制基準の見直しなど、福祉や環境関連経費負担増高の時代を迎えていたのであります。

任期中におきましては、世界同時テロ、イラク戦争、北朝鮮問題、BSE、鳥インフルエンザ、地球環境の深刻化など世界を揺るがす問題が多発し、国内においては小泉政権誕生を機に「経済財政運営に関する基本方針」いわゆる「骨太の方針」などにより構造改革・財政歳出削減がいよいよ本格的な実施段階に入ることとなりました。三位一体改革の名の下に、国は地方自治体の大きな財源である地方交付税の大幅削減に手をつけ、このことにより全国の自治体は市町村合併の渦に巻き込まれることになったのであります。

このような状況の中、私は町民各位の意見に耳を傾けることを第一義とし、「公平・公正・公開」の原則や「自助・互助・公助」の精神、さらには地方自治体自立三条件、①財政の見通しが立つこと、②医療・福祉・防災・ごみ処理・ライフラインなどの安心・安全の確保が図られること、③産業基盤の安定と雇用の場が確保されることなどを基本に町政執行にあたるを旨としてきました。このため、

「第4期滝上町総合計画」の基本計画、また「第3次行政改革大綱」や「行財政改革実施計画」に沿って、農業振興へ「土」について、林業・林産業振興へ「風と緑」について、商工観光振興へ「香り」について、の町勢振興と安全で安心して暮らせる生活福祉・教育関係へ「ゆとりとやすらぎ」について、の充実を図ることを公約として行財政運営にあたってまいりました。

実施事業の主なものについて振り返ってみますと、

「土」については、農業の基本は土づくりにあることから、耕畜連携による堆肥循環や堆肥保管施設の設置、農業労働負担軽減のためのシステムとして農作業受委託（コントラクター）、後継者・担い手対策として新規就農者受入のための農業研修生滞在施設を設置してまいりました。そしてこれら土づくり、農作業受委託、後継者・担い手対策の3本柱を一手に担う（有）「農業振興公社」を設立してまいりました。このことによる成果につきましては、関係者の努力もあって、小麦を中心に質・量ともにすばらしい結果を生みつつあります。この公社は本町農業にとって、中核的組織として今後ますます農業関連の雇用も包含した重要なものになってくると思われまます。このほか、土地基盤整備や環境保全のための家畜糞尿処理管理施設整備を実施してまいりました。

「風と緑」については、森林は元来多面的な機能を持ち、木材生産という経済的側面と環境財としての役割があり、特に近年は地球温暖化の問題が顕著になり、環境保全の役割が注目されています。

環境との調和を図りながら計画的に森林を造っていくことが本町の林業・林産業の発展に繋がっていくことを踏まえて、民有造林に対

する補助、林業経営の効率化を図るための高能率林業機械の導入補助、林道網の整備を実施してまいりました。地球に優しく再生可能な資源循環の最たるものである木質バイオマス活用（ペレット燃料・ピンチップ）の支援やペレットストーブ導入補助も実施してきたところです。持続可能な資源循環型産業として期待されているところでありまます。

「香り」については、芝ざくら、ハーブ・渚滑川など地元資源を活かした体験・滞在型観光をすすめ、入り込み客（交流人口）の増加を図り、商工については企業振興促進補助や地場産品振興会などの支援に努めてまいりました。平成17年度には、網走支庁管内で初めて「地域再生計画」（総理府）の認定を受け、『「農・林・観」連携による地場産品振興計画』として2カ年度にわたり事業を展開してまいりました。木質系バイオマスの研究・販売促進、農産品を含めた地場産品の市場調査・販路拡大、渚滑川体験ガイド養成セミナー（溪谷遊歩道ガイド・キャッチアンドリリース）など、各産業が連携し地域資源を循環有効活用して滝上町を売り込み、雇用創出に繋がっていくという事業です。溪谷遊歩道が「美しい日本の歩きたくなるみち500選」に認証されたことや「花の観光地づくり大賞」を受賞したことは大変喜ばしいことでありました。特に後者は、花いっぱい運動やガーデニングコンテスト、芝ざくら町民植栽会など、日頃から町民が一丸となって協働して彩りや潤いをいっばいにしてきた活動が認められたもので、何にも増して嬉しいことでもあります。